

いそつぶ物語

(五十九) 親子の蟹

或時、蟹の おつ母さんが、子蟹に申しました。

「お前なぞ、そんなに、横々にお歩きなの？、真直に歩く方は、どれ程体裁がよいかも知れないよ」

子蟹は答へますに

「おつ母さん、そりゃそうよ、だから、おつ母さんが真直な道を教へてくれさへすれば、私だって、

チャンと其方に歩きますわ、

おつ母さんは、これで全く閉口して仕舞ひました。

口で言うよりも、お手本が大事です。

(六十) 鼠と蛙と鷹と

いつも、地面の上で許り住んで居る鼠が、ひよとした事から、大概は水の中で暮す蛙とか仲よしになり

りました、所が、此蛙先生、中々、悪者でありま

して、或日のこと、鼠の足と自分の足を、しっかりと紐で結びつけて、そして一所に遊ばうと言ひ出

しました。

鼠は何の氣なしに、蛙の言ふ通りにしました。二人は、足をしばり合つたなり、あちらこちらと歩き回って居ましたか、其中に、蛙は、だん／＼自分の住んで居るお池の方へ連れて行つて、其岸の所まで来た時、鼠をつれたなり、いきなり、ピョーイとお池の中へとびこみました。そして、蛙は

さも大したてがらをした様に、得意になつて、水の中をくわたり、クワツ／＼／＼と鳴いては

遊び回つたりして居ますと、可愛相に、鼠は、遊ぶ事も何も出来ませんから、もう、疾／＼に溺れて仕舞つて、其死骸が水の上に浮き上つて居りました。

た。

十八

前程から、大きな鷹が、お池の眞上に舞うて居ました。鼠の死骸の浮いて居るのを見付けたとみえて、いきなり爪にひっかけて飛び上って行きました。蛙は、やつぱり、足を鼠に結び付けて居ましたから一所に、鷹に取られたといふことです。人そのろは、穴二つといふ事がある。

(六十一) 馬と獅子

或時、馬が山へ行つて獅子と同盟して、澤山に獲物を捕獲する事に約束しました。獅子は、力で、馬は早く駆ける事で、互に助け合つて、利益を得ようといふ事に決めました。さて、思ふ存分に、澤山の獸を捕獲しました時に、獅子は夫を甘く分けようではないかと言ひ出して、三塊に分けました。其處で、獅子の申しますには、「己は、獸の王だから、先づ第一の塊を取つて置

くよ。そして、第二の塊は、お前と一所に働いた分け前として貰つて置くよ。夫から、第三の塊だがこれは、お前、喜んで己に呉れて置いて、早く家へ歸らないと、お前の爲にならないのだ」といつて、皆取つてしまいました。

力即ち正といふことがありますが、何とかいふ國は、今迄よく此獅子の様な事をしましたっけ。

戦争のお話

先月一日の鴨緑江の戦争は、殆んど前古未曾有の激戦で、敵の死傷は軍團長、師團長の負傷を始め無慮數千人に上つた位ですから、我軍に於ても、随分多數の損害を被りました。其中に、まことに運よくも九死一生を得た勇士の面白いお話があ